

<メディア批評> 大手メディアが切り込まない原子力規制委員長の原発推進発言

2015 年 3 月 23 日 上出 義樹

3 月 22 日の NHK 総合テレビ「日曜討論スペシャル・統一地方選迫る」で、10 政党の政策担当者らによる論争を聞いていたら、国政絡みの争点として、景気や安保法制などとともに、原発再稼働の問題も取り上げられた。そこで蘇ってきたのが、その数日前に耳にした原子力規制委員会の田中俊一委員長の問題発言である。

川内原発の工事計画認可で「大きなステップ」と再稼働の推進を“追認”

同委員会は 3 月 18 日、既に基本的な審査に合格している九州電力^{せんだい}川内原発（鹿児島県薩摩川内市）1 号機の再稼働に必要な設備の設計変更などに関わる工事計画を認可。早ければ今年 6 月にも、現在運転がストップしている全国の原発の中で第 1 号として、福島原発事故後の新しい規制基準による初の再稼働が可能になる。

田中委員長は、この工事計画の認可を受けた同日の記者会見で、「これを大きなステップにして、今後の審査はもう少し効果的、効率的に進むようになるだろう」「たくさん大きな節目があるが、その一つを大きく超えたと認識している」などと感想を述べた。これはどう考えても、安倍政権と同じ「原発再稼働ありき」の立場に立つ発言である。

透けて見える安倍政権との気脈

そこで私（上出）が「これから再稼働がどんどん進むということか」と質問すると、田中委員長は「私は再稼働（自体）についてはコミット（関与）しないし、物は言わないという立場」「（審査の）ひな形ができたという意味でステップと申し上げた」と応じた。

まさに、物は言いようだが、「原子力規制委員会の審査に合格した原発は再稼働させる」と公言する安倍晋三首相と気脈を通じる姿勢が透けて見える。

政府・業界からの「独立」や「中立公正」の旗印はどこへ行った

委員長を含め原子力の専門家や地質学者ら 5 人の委員からなる同規制委は、民主党政権時代の 2012 年 6 月に発足。原子力規制庁を事務局として、「専門的知見に基づき中立公正の立場で独立して職権を行使する」ことが、原子力規制委員会設置法でうたわれている。

この「中立公正」や「独立して」の文言は、言うまでもなく、規制委が政府や電力業界などと距離を置いて国民の立場に立つこと、いわゆる「原子カムラ」や「安全神話」と決別することを宣言したものである。

全国世論調査では依然、再稼働「反対」が多数

新聞やテレビなどが全国で行う最近のどの世論調査でも、原発再稼働の賛否については「反対」が多数を占めている。ところが原子力規制委員会は川内原発のほか、昨年末には

関西電力高浜原発 3-4 号機（福井県高浜町）の再稼働を事実上認める「審査書案」を了承している。そして、「中立公正」や「独立」の旗印をどこかへ置き忘れたかのような委員長発言である。

さらりと言ったのけた重い「ひとこと」

ただ、田中委員長はこれまでも、「原発推進」を追認するような微妙な内容をさらりと言ったのけることがよくある。そのせいか、大手メディアは、私が今回問題と感じた委員長の発言部分にはとくに切り込んでいない。しかし、決して軽視することができない重い「ひとこと」である。

（かみで・よしき）北海道新聞社で東京支社政治経済部、シンガポール特派員、編集委員などを担当。現在フリーランス記者。上智大大学院博士後期課程（新聞学専攻）在学中。